

平成 28 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (日本海) について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、平成28年は7月5日、8月2日、9月2日に桁網(水工研Ⅱ型)を用いてつがる市沖8点で調査を行いました(図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0~394尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました(表1)。採捕したヒラメの全長組成は7月5日に水深5m、10mで40~49mm、8月2日に水深5mで40~49mm、10mで30~49mm、9月2日に水深5、10mで60~79mmが主体となっていました(図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成28年は251であり、昭和55年以降7番目に高い水準でした(図3)。これまでの調査結果から、日本海では着底指数が高かった年の翌々年に2歳魚の漁獲尾数が多くなる傾向があることから、2年後に漁獲される本年生まれの漁獲量はやや高い水準になると期待されます。

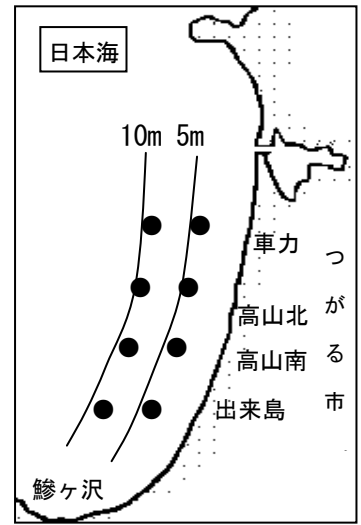


図 1 調査地点

表 1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	水深				水深				(尾/1,000m <sup>2</sup> )		
	調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	5m 平均	10m 平均
2016.7.5		74	37	43	41	6	4	6	0	48	0
2016.8.2		335	5	394	68	57	75	140	101	251	92
2016.9.2		35	172	44	25	67	58	72	41	49	60

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

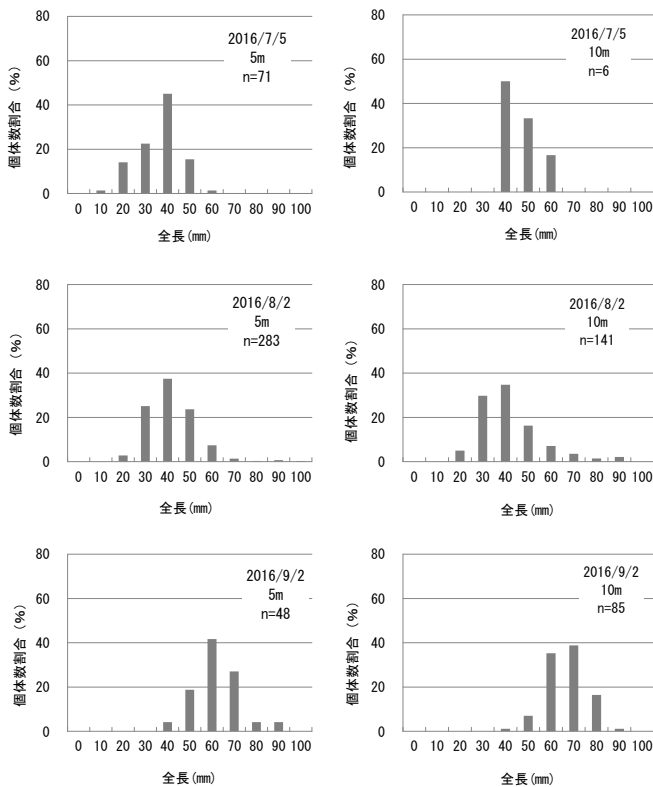


図 2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

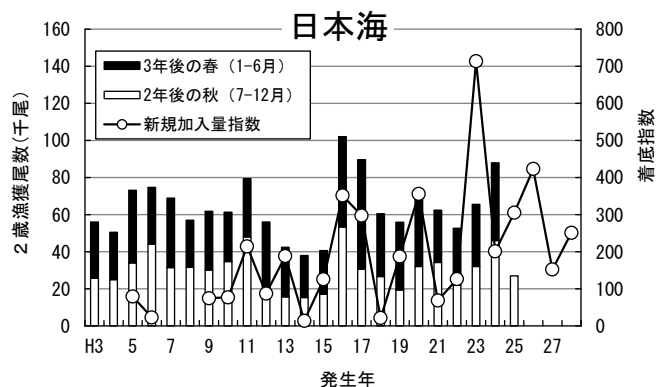


図 3 日本海のヒラメ着底指数と 2 歳魚漁獲尾数の推移